

平成 30 年度 第2回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 議事録(摘録)

1. 日時:平成 30 年 10 月 5 日(金) 13 時 00 分～14 時 45 分
2. 開催場所:麻生区役所4階 第1会議室
3. 出席者
 - (1)委員
吉松昭彦委員長、村井委員、今村委員、植田委員、伴委員、伊藤委員、原委員、森委員、大川委員、河村委員、依田委員、日暮委員、永井委員
 - (2)事務局
若尾保健福祉センター所長、猪又事務局長、佐藤保健福祉センター担当部長、森田保健福祉センター担当課長、杉浦児童家庭課長、大和田高齢・障害課長、平田保護課長、海野衛生課長、安藤企画課長、高石危機管理担当課長、佐藤生涯学習支援課長補佐、藤平地域ケア推進担当係長、白勢地域ケア推進担当主任、山本地域ケア推進担当、石塚地域ケア推進担当

4. 次第

1 開会

事務局長挨拶
事務局から
委員長挨拶

2 議事

- (1)第 5 期麻生区地域福祉計画進捗状況について
- (2)第 3 期麻生区地域福祉活動計画中間見直しについて
- (3)地域包括ケアシステム構築に向けた取組について
 - 高齢者地域見守りモデルプロジェクトについて
 - 町会自治会ヒアリングについて
 - 平成 30 年度田園調布学園大学・麻生区連携協議会報告会について

3 閉会

【配布資料】

会議次第
委員名簿
座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料1 第 5 期麻生区地域福祉計画進捗状況

資料2 高齢者地域見守りモデルプロジェクトについて

資料3 平成 30 年度 町会・自治会ヒアリング 実施概要

別冊 第 3 期麻生区地域福祉活動計画中間見直しについて

5. 公開・非公開の別 公開

6. 傍聴者 0名

7. 議事摘録

1 開会

2 議事

(1) 第5期麻生区地域福祉計画進捗状況について

吉松委員長 議題1の「第5期麻生区地域福祉計画進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局 地域ケア推進担当主任、危機管理担当課長より重点項目となっている取組を中心に進捗状況説明

依田委員 取組10「地域人材の発掘と育成」についてお聞きしたいと思います。認知症キャラバンメイトについて、連絡会を開催したということで一歩前進したように思いますが、麻生区のキャラバンメイトの動きが少し鈍いと耳にしました。先日開催された、認知症の理解を深めるために地域住民や認知症の方やその家族がタスキをつないで日本を縦断するラン伴(ランとも)というイベントには、市や区の職員も多数参加されていて心強くと感じましたが、今後の動きとして認知症キャラバンメイトの運営は重要であると思います。地域包括支援センターに認知症サポーター養成講座の依頼があると、地域包括支援センターの職員が講師をすることとなるのですが、そもそも地域包括支援センターは通常業務で手一杯な状況なため、認知症サポーターを増やそうと思えば思うほど自分の首を絞めることとなります。そのため地域包括支援センターの職員以外に、認知症サポーター養成講座の講師となりうるキャラバンメイトを強化することが、麻生区の認知症ケアを進める中で重要になってくるかと思えます。他区ではもっと盛んな動きもあると聞いたことがありますが、麻生区での取組みやスピード感についてどのようにお考えでしょうか。

事務局 認知症キャラバンメイト連絡会については、今年度第一回目ということで初めて開催しました。キャラバンメイトについては全市的なレベルで育成し、麻生区で活動可能であると登録した方に区内で活動してもらおう、という流れです。実際に麻生区での登録がある方はかなりの人数います。しかし現状としては、本来は「年何回認知症サポーター養成講座の講師をする」等の約束事項もありますが、区外在住の方もいれば、就労中の方もいて、定期的な活動ができていない方が大半という状況です。そのため、キャラバンメイトの間で横の繋がりを作り、自主的な活動に繋がるような側面的な支援ができればと考え、連絡会を開催することとなりました。その際は地域包括支援センターの職員にも出ていただきフォローさせていただきました。今後も定期的に連絡会を開催したいと考えています。他区の動きとしては、例えば多摩区では、キャラバンメイト主導で連絡会を開催していて、小学校等で自主的に活動していると聞いています。麻生区でもこういったキャラバンメイト主体な活動に繋がるような取組を考えたいと思っています。

依田委員 横の繋がり作り方が重要であると思います。他の方の様子が見えなくて動きようがない、という声をキャラバンメイトから聞いたことがあります。自主活動というのは、活動について学習した後すぐに具体的な取組に誘うことが大切なので、キャラバンメイトになったらすぐに次の活動を紹介したり、メイト同士を繋げたりといった、意図的な支援をすると自主的な活動にも繋がりやすいのではないかと思います。住民が自主的な活動をするというのは大変難しいことなので、是非今後も支援していただければと思います。

伴委員 社会福祉士として個人で活動している中で感じたことですが、民間企業と地域包括ケアシステムの構築がどのように関わっていくのか、ということについてお伺いします。行政も地域包括支援センターも多忙な中で、いかに民間企業の力を活かせるかが課題ではないかと思えます。

事務局 実際に今取り組んでいる例としては、経済労働局が企業と地域を結びつけるという取組をしております、区内でも山坂が多く、また高齢化率も高く日常的な移動が大変な地域で、ローソンや福祉施設で育てた野菜の移動販売をしています。そこに地域包括支援センターや地域みまもり支援センターの職員が出向き、健康や介護予防に関する講座や相談会を設けたりしています。また、取組40「社会福祉法人等の地域公益活動の推進」にもあ

りますが、区内の福祉施設の空き車両を提供していただき、高齢者をサロン等に送迎するという取組も進めています。できるところから、地域の課題やニーズに応えるための解決策として、様々な資源を活用していきたいと考えています。

伴委員 例えば区民が何かしたいと思ったときに、区が認定している民間指定業者などがあれば、区民は参考にしやすいと思います。少しずつ取組を進めていく内容だとは思いますが、今後も継続して進めていただきたいと思います。

村井委員 取組15「学生ボランティアの活動促進」については、田園調布学園大学の学生がお世話になっていますが、1年生の早い段階から地域に出て福祉を学ぶことができています。今後経験した学生から意見、感想をもらい皆さんにも紹介できたらと思います。地域の活動団体と学生との緊急時の連絡体制や個々の調整等課題はありますが、新しい人材育成に大きな寄与があると思います。

ご覧のようにこれだけの取組みが進捗しているので、これらの内容や実施状況を皆様方にご確認いただき、皆様が関わりのある取組みについて参加促進支援体制などをさらに充実させるために連携していただければと思います。今後の国から地域福祉計画に関する方針が出てきていて、取組24「成年後見制度への対応の充実」に関連していますが、成年後見制度利用促進と、生活困窮者自立支援方を計画に盛り込まなければいけないという動きがあります。色々な形で進めて行かなければいけない内容になると思いますが、皆様は現場の状況を把握している方々ですので、これらについてもどのように地域福祉として取り組んでいったらよいか、引き続き現場の区民の声を反映できるようご意見をいただければと思います。

(2) 第3期麻生区地域福祉活動計画中間見直しについて

吉松委員長 それでは、議題2「第3期麻生区地域福祉活動計画中間見直しについて」説明をお願いいたします。

麻生区社会福祉協議会 永井委員 第3期麻生区地域福祉活動計画中間見直しについて、資料に基づき説明(別冊)

村井委員 今後は地域福祉計画と地域福祉活動計画を連動させて計画を立てていくという話がありましたが、そうなる福祉圏域のデザインが改めて重要になってくるのではないかと思います。どの範囲で地域福祉を進めていくかという中で、小地域という言葉もありましたが、例えば地区社協単位では小地域と呼ぶには難しいかもしれないので、町会レベルでどう連携してデザインしていくかが重要な課題かと思います。それぞれの計画が相乗効果をもたらして、町会レベルの福祉活動と連動した総合デザインのような計画になっていったら素晴らしいと思います。また、社会福祉協議会は福祉教育にも力を入れていらっしゃいまして、小中学校等の総合学習の時間に福祉の体験学習を支援してくださっていますが、これはとても重要なことです。今年東京都内で保育関係を含めた福祉分野に就職をした方々に対して、「何をきっかけに福祉分野の人材になることを決めたのか」というアンケート調査を行った結果、1位は子供が好きだから、2位は資格を取ったからということで、これは資格を取る時点ですでに福祉分野を目指すことを決めているので、もう少し原点に遡ったきっかけを探るのには3位が非常に注目すべき結果で、福祉の職場体験がきっかけという回答でした。これは社会福祉協議会が実施されている福祉教育と体験学習が相乗効果をもたらしている結果だと思えます。現段階でも福祉分野の人材は不足していますが、今後もその状況が続く中で、若者もつと言えども子どもたちが福祉の分野に対して興味を持ち、人の役に立つ仕事であること、自らも人との関わりを通して一生涯成長できて相互の幸せをつくることのできる仕事であるという認識をもってもらうことを、早い段階で実現できればいいと思っています。

社協と行政が連携することで、より小地域で住民を中心とした福祉の計画と実践がデザインされ構造化が進むことが期待されるので、皆さんのお力もお借りして、住民の声を反映し住民にメッセージを届けて主体的に行動するというところに繋がればと思います。是非町会

レベルでこう言ったところが進めばいいと思います。

(3)その他 地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

田園調布学園大学 村井委員 高齢者地域見守りモデルプロジェクトについて、資料に基づき説明(資料2)

今村委員 以前私自身が他の地域で親の介護をしていた時に、ご近所の方が同じように介護をしていたのですが、介護が終わった後に自殺されたということがありました。そこは住民同士の繋がりが希薄な地域だったのですが、そうでなくても、どうしてもご近所同士でも他人の家庭の事情には口を出しにくいという意識があると思います。そんな時、地域で見守りシステムというものがあれば、気になることがあったときに躊躇せず声をかけ、勘違いだったとしても「何もなくて良かったね」で済む雰囲気広がるかなと思います。また、見守る側のやりがいの気持ちを高めるというお話もありましたが、一方で見守られる側としては、元気な姿を知っている近所の方には今の状況を知られたくない、という気持ちもある、と当事者から伺ったことがあります。そういった気持ちも否定しないで尊重することが大切かと思えます。ただ、そうは言っても高齢化は進み状況も変わっていますし、見守られる側の「人に迷惑をかけたくない」というような意識を変えるアプローチも大事なかなと思います。

村井委員 ありがとうございます。見守りを受け入れてくださる方も地域貢献者であるということも大事にしています。このシステムでは、見守りを希望してくださる方には、誰に見守られたいか3名リクエストしてもらうことを基本として考えています。そのリクエストしてくださる行為が新たな地域人材の発掘そのものだと考えています。リクエストされた方に見守りを依頼することで、その方が地域のことを気にしてくれるようになれば、新たな地域福祉の担い手になる、というような仕組みが期待されます。また、見守られる方が「見守られて安心だ」と感じてくれれば、それが見守りを拒否している方へのメッセージにもなります。まずは見守られる方の尊厳を一番に大切に、当事者の方の力を借り、声が反映されるシステムにすることの大切さを改めて再確認しました。

森委員 今回のプロジェクトのモデル地区となった地域が、民生委員として私が担当している地域なので、これからこういった動きになるのか気になっているところです。民生委員の立場として一番難しいと感じているのが、見守り活動の中で情報共有が必要になりますが、民生委員として得た情報をどこまで共有して良いのかということに悩んでいます。先日村井先生から、個人情報とプライバシーの違いについてお話がありましたが、こちらが個人情報だと認識していても、ご本人にとったらプライバシーだということもあります。その辺りの取り扱いが本当に難しいと感じていて、これから勉強しながら取組んでいくつもりですが、仕事が増えたという思いもあります。

村井委員 本来であれば見守り活動を地域が担うという意味では、民生委員さんの負担を軽減するための仕組みであるべきなのですが、初期段階では負担が大きくなってしまいうという面もあるかもしれません。個人情報の取り扱いについては、啓発をするしか手はないのかもしれませんが、一番は見守り活動が地域の信頼を得て、地域の取組みとして誇りになっていくことが大切だと考えています。見守りや情報共有を拒否する方にも、一つの思いがあると思いますので、その理由を踏まえて寄り添った活動ができるよう、民生委員さんと協力しながらやっていきたいです。見守り活動そのものはプライバシーに徹底的に配慮してやるということをきちんと説明しながら、根底にあるのは、見守り活動を成功させることが目的ではなく手段であって、地域のつながりや、ご近助システムをつくるのが目的なので、そんなお手伝いができればと思っています。民生委員さんとは連携して、情報共有と役割分担、悩みを共有しながらサポートしていきたいと思っています。

依田委員 麻生区の見守り力を上げるための、このプロジェクトと、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センター等との連携や仕組みの構想がありましたら教えてください。

村井委員 まず一つは、麻生区で作成した地域自己診断ツール「ちいきのちからシート」と連携することを考えています。「ちいきのちからシート」を実施し、地域の見守り力に課題があると

結果が出た際には、このプロジェクトで得た知見を提供して地域の中で進めて行きたいと思います。御協力いただけるのであれば、地域包括支援センターの中でもこのプロジェクトのノウハウを使っただいて、地域の中で見守り活動を立ち上げる等支援していただく、社会福祉協議会に対しては、まずは地域全体にこういった活動の普及啓発をしていく中で、一つの提案者として色々なところでPRしていただけたらと思います。本来は地区社協にこの取り組みを引き取っていただければという思いもあるのですが、現段階では地区社協のエリアが大きいので、町内会とどのように構造化できるかというところが課題かと思いますが、是非お力をお借りできればと思います。

依田委員 このプロジェクトに関して、行政はどのような関わり方をしているのでしょうか。

村井委員 御協力をいただいているという関係で、行政はアドバイザーでありスーパーバイザーであるという立場です。責任の主体としては我々プロジェクトチームにあります。ただ、すべての知見と成果物は行政にフィードバックすることは当然のことと考えています。

依田委員 地区社協に関しては、柿生地区社協では本当にエリアが大きいので、小地域にすべきかということの結論を出す場所が必要だという機運はあります。ただ、今年度研修会を開催し、大きなままで良さを活かせるとか、今の素晴らしい地区社協の力を活かせるようなことを検討しているところです。

村井委員 どうしても見守り活動は町会レベルでないとやりづらい面がありますが、他都市では地区社協クラスの母体があって、そこが全体のとりまとめをして、個々の町会は実行部隊となっているという例もあります。

事務局 町会自治会ヒアリングについて(資料3)、平成 30 年度田園調布学園大学・麻生区連携協議会報告会について連絡

吉松委員長 それでは、これもちまして、本日の議事については終了となりますので、ここで進行を事務局にお返しします。委員の皆様、スムーズな会の進行に御協力いただきありがとうございました。

3 閉会

事務局 それでは、本日の会議は閉会いたします。本日はお忙しい中御参加いただきまして、ありがとうございました。

14 時 45 分閉会